

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 22 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370464

研究課題名(和文)ミャオ語系諸言語の記述言語学的・歴史言語学的研究

研究課題名(英文)Discriptive and historical study of Hmongic languages

研究代表者

田口 善久(Taguchi, Yoshihisa)

千葉大学・文学部・教授

研究者番号：10291303

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中国で話される少数民族言語であるミャオ語系諸言語の文法について、言語類型論的に有意義な情報を収集・整理するとともに、それに基づいてミャオ語文法の過去の姿を究明しようとするものである。ミャオ語のフメー語(Lan Hmyo)について記述研究が進展し、語類の認定と語類の文法的振る舞い、さらにさまざまな構文の形成法と機能についての詳細な記述を行った。また、同系言語のパナ語(Pana)、フムー語(Hmu)についても記述を進め、パナ語については文法記述と長編資料の収集を行い、フムー語については、いくつかの文法項目についてフメー語との対象研究を行った。

研究成果の概要(英文)：In this study, the applicant collected typologically significant information on the grammar of Hmongic languages, especially Lan Hmyo, Hmu, and Pana. In the study of Lan Hmyo, the applicant made a detailed grammatical description including identification of word-classes, the behavior of each word-class, and the formations and functions of various constructions. In the study of Pana, the applicant collected grammatical information and narrative texts. The applicant also conducted a contrastive study of Lan Hmyo and Hmu.

研究分野：言語学

キーワード：Hmongic languages

1. 研究開始当初の背景

ミャオ語は、ミエン語とともにミャオ・ヤオ語族という一語族をなす言語であるが、記述の遅れている言語群といえる。従前の研究では、語彙集や音韻記述はあるものの、文法面での記述がある言語がいくつかあるのみで、ほとんどの記述も現在の言語研究が要求する情報を提供できるレベルにない。そこで、類型論的な一定の枠組みの下で、限定した項目について、できるだけ多くのミャオ語の文法を記述することが必要と考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、ミャオ語系諸言語の文法について、言語類型論的に有意義な情報を収集・整理するとともに、それに基づいてミャオ語文法の過去の姿を究明しようとするものである。まず、共時的な記述研究であるが、ミャオ語の同系言語間の文法的差異は、言語類型論的に有意味であるほど大きい。その詳細を明らかにできれば、言語類型論に大きな貢献をなすことが期待できる。次に、共時的な分析を基礎として、歴史的な文法変化を研究することも目的とする。このことを、申請者が蓄積してきたデータと海外共同研究者との協力によって推進する。研究対象の言語としては、申請者自身が記述を行っている、フメー語、パナ語、海外共同研究者にデータの提供を依頼する言語として、フモン語、フムー語、コション語を予定する。

共時的な記述的研究においては、Haspelmath, et. al. (2005) があげる形態・統語的特徴を取り入れて、類型論的に有意義な特徴を記述する。次に、歴史的な文法変化の研究においては、接頭辞の機能、名詞句内語順、極性疑問文の構成、関係節の構成にまず着目して研究を行う。

3. 研究の方法

(1)申請者の保有するデータを主要な分析の対象とするが、データ補充のため海外(中国)の共同研究者を依頼する。これにより、各言語についての必要な情報を確保する。

(2)文法項目ごとに、言語の特徴を、対照を目的として整理する。いくつかの項目については、それぞれの特徴の詳細について分析を行う。

(3)選択した文法項目について、祖語の文法、歴史的変化についての推定研究を行う。

4. 研究成果

本研究では、申請者が記述するデータの他に、海外共同研究者との協力により得られるデータが重要な役割を演じるのであるが、この点において、研究が思うように進行しない面があり、研究対象の複数の言語について、既存の文献のデータしか利用できないという問題があった。これについては、本研究を3年で打ち切り、新たな研究協力者を得て、新規に基盤研究C「ミャオ語系諸語文法の記述

言語学的・歴史言語学的研究」として、研究を継続することとなった。したがって、以下の成果は、一連の研究の途中経過の報告とすることをまず申し添える。

(1)記述研究

パナ語に関するデータ収集

パナ語は湖南省の小さな地域(申請者の調査地は湖南省城歩県)で使用される言語であるが、これまで語彙の記述と筆者による歴史音韻研究しかない言語である。この言語について、2015年8月に調査を行い、文法データを得た。この記述研究において採録した資料を雑誌論文で報告した。また、以前に収集した資料について、雑誌論文で報告した。

フメー語に関する文法記述

フメー語は、貴州省中央部(申請者の調査地は貴州省開陽県)で話される言語である。従前は、申請者による語彙集が出版されているものの、文法研究はいまだに行われていない。この言語について、2013年3月、2014年5月、2015年3月に調査を行った。

記述研究においては、この言語の文法の全体像を描き出すため、Dixon (2010)を基礎文献として文法記述の枠組みを作成し、それに基づいた記述を行った。これは、語類の認定と派生構造及び構文の認定を主要な作業とする。この部分の研究成果の一部は、2016年に発表したが、さらに引き続き発表する予定である。以下に、その内容を簡述する。語類については、屈折のない言語であるミャオ語においては、統語的ふるまいと派生形態論が語類認定の基準となる。たとえば、名詞については、動詞項になりうる点、名詞化接頭辞を付加することなしに直前に類別詞が共起できる点、指示詞あるいは数詞と直接共起できない点が認定基準となる。このような形態論的・統語論的な基準をもとに、類別詞、動詞、数詞、指示詞が析出された。次に、派生構造については、名詞化、関係節、動詞連続とその派生構文、位置・移動構文などを認定した。また、語類認定の問題において、動詞と形容詞の区別の問題について研究を行った。これは、Dixon (2010)による、形容詞範疇の普遍的存在という主張をこの言語において検証するためである。結論としては、この両者を区別する普遍的な形態論的区別は存在しないということ、ただし、関係節形成の仕方において、状態性質を表すものは、関係節形成において、助詞-moAを用いる前置き形成の容認度が低くなるという違いが存在することが分かった。たとえば、動作の場合も、状態性質の場合も、動詞は否定辞 muA-に先行されるという統語的ふるまいを共有しており、程度副詞も意味さえ自然であればいずれとも共起可能である。おそらく、後者の特徴は、助詞-moAを用いる前置き関係節形成に、非恒常的な性質を表す意義があるためだと推察される。このように、Dixonの主張は、関係節形成という統語的なふるまいにおける

違いという点においては確認されたが、明確な語類の区別というよりは、意味に基づく動詞の内部における区別としたほうが、両者の共通性を標示するのに好適であると考えた。以下に動詞のいくつかの特徴における振る舞いをまとめた。

	動作動詞	状態性質動詞
擬態動詞派生	+ (一部)	+ (一部)
瞬間動詞派生	+	+ (一部)
szB-未然形命令	-	+ (一部)
-moA 関係節形成	+	-

(2)対照研究

フメー語とフムー語の対照研究

先に述べたデータ入手の問題により、類型的な観点からの対照研究は、フメー語とフムー語とのものに限定された。この両者の文法における特筆すべき差異として、関係節形成法について簡述する。

フメー語においては、関係節形成は-moAによる前置き関係節と名詞化辞 taA- (母音はschwaの場合もある)による後置き関係節の2つがあり、動作動詞はいずれに構成にも表れるが、状態性質動詞は後者にしか現れない。たとえば、zruC taA- qanA <服 名詞化辞 古い> 「古い服」。しかも、taA-は動詞の名詞化辞であるために、名詞が後続することできず、したがって見かけ上主語を関係節内に含むことができない(文脈上明らかであれば省略する形にすることは可能)。たとえば、*phonA zruC taA- taAnheeBnhaA kanB maB -eB <類別詞 服 名詞化辞 昨日 私 買う 指示詞> 「昨日私が買った服」ということはできず、この場合には、taAnheeBnhaA kanB maB -moA phonA zruC -eB <昨日 私 買う MO 類別詞 服 指示詞>とするのが自然である。一方、フムー語においては、関係節は後置きでありかつ関係節標識が現れない。たとえば、状態性質動詞の場合は、u3 qao5 <服 古い> 「古い服」のように状態性質動詞が名詞に直接後続し、動作動詞の場合にも、phang1 u3 hnha1nong4 vi4 ma6 a4 <類別詞 服 昨日 私 買う 指示詞> 「昨日私が買った服」のように名詞に文の形が後続する。これらの形成法がどのような歴史的変遷で現在の多様性に至ったのかについては今後の課題である。

(3)歴史研究

語彙をデータとした系統研究

これは、歴史研究の基礎として、ミャオ語系諸言語間の系統関係を、語彙をデータとして明らかにするものである。文法的特徴の共有が、どのくらいの歴史深度を持つか考察する際の基礎的な仮説を構築する。本研究では、語彙をデータとし、最節約法によって系統樹を作成した。この成果については、口頭発表の で発表した。

<引用文献>

Haspelmath, Martin, Matthew S. Dryer, David Gil, and Bernard Comrie (eds.) 2005. *The World Atlas of Language Structures*. Oxford: Oxford University Press.
Dixon, R. M. W. 2010, 2012. *Basic linguistic theory* (v.1: Methodology, v.2: Grammatical Topics), Oxford University Press.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2件)

1. 「パナ語で語られる長編資料(2)」田口善久, 『千葉大学ユーラシア言語文化論集』, 査読無, 205-218, 2013.

2. 「パナ語で語られる長編資料(3)」田口善久, 『千葉大学ユーラシア言語文化論集』, 査読無, 169-178, 2015.

〔学会発表〕(計 3件)

1. 「海外苗語研究简介」田口善久, 2014年4月29日, 貴州民族大学文学院.

2. “Reconstructing a feature lost in all the daughter languages: On Proto-Mienic stop initials”, Taguchi, Yoshihisa, *WSU Linguistics Colloquium*, November 21, 2014, Wayne State University.

3. 「ミャオ語の系統について」田口善久, 2015年12月5日, チベット・ビルマ言語学研究会(神戸研究学園都市 UNITY).

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:

番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

田口 善久 (TAGUCHI, Yoshihisa)
千葉大学・文学部・准教授
研究者番号：10291303

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()